

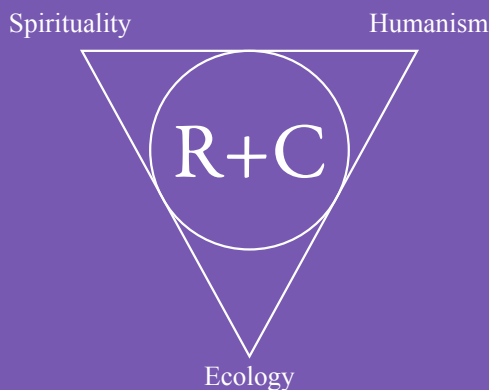
マニフェスト (宣言書) MANIFESTO

バラ十字友愛組織からあなたへの訴え

Appellatio Fraternitatis Rosae Crucis 1614 - 2014

Salutem Punctis Trianguli !

1614年に、宣言書『バラ十字友愛団の声明』(Fama Fraternitatis)を公表し、バラ十字会は社会にその姿を現しました。それから400年を経た本年、バラ十字会 AMORCの最高評議会の評議員である私たちは、善良な意図を持つすべての皆さんに次のことを訴えます。人類がお互いや、自然界や、自身の良心と争うことを止めて、それらと再び調和して生きることを促す私たちの活動に加わってください。精神性の重視 (spirituality:スピリチュアリティ)、人間の尊重 (humanism:ヒューマニズム)、環境の保護 (ecology:エコロジー)という3つの柱によって、この『あなたへの訴え』が導かれ支えられ、あなたの心に届くことを心から願っています。



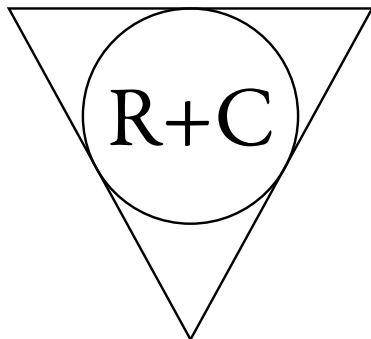
So mote it be!



Antiquus Mysticusque Ordo Rosae Crucis

マニフェスト (宣言書)

MANIFESTO



バラ十字友愛組織からあなたへの訴え

Appellatio

Fraternitatis Rosae Crucis

初版発行：2014年1月

First edition: January 2014

Copyright © 2014 バラ十字会 AMORC 世界総本部

Supreme Grand Lodge of Rosicrucian Order, AMORC

All rights reserved

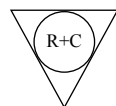
マニフェスト（宣言書）

MANIFESTO

親愛なる読者のあなたへ

1614年、今から400年前のことですが、ある神秘学の友愛組織が、ドイツとフランスとイギリスでほぼ同時に、宣言書『バラ十字友愛団の声明』（Fama Fraternitatis Rosae Crucis）を出版し、その存在を世間に公表しました。この宣言書は、多くの読者、とりわけ思想家、哲学者、カトリック教会などの当時の宗教指導者に大きな反響を巻き起こしました。この宣言書は、その全体を通じて、宗教をはじめ、政治や哲学、科学や経済の分野にいたるまでの、世界規模の改革の必要性を訴えていたのです。歴史家によると、当時のヨーロッパでは、多くの国々がきわめて混乱した状況にあり、誰もが「ヨーロッパの存続の危機」を、はばかりことなく口にしていました。

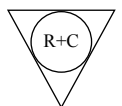
『バラ十字友愛団の声明』の後を追うように、『バラ十字友愛団の信条告白』（Confessio Fraternitatis）と『クリスチャン・ローゼンクロイツの化学の結婚』（Chymical Wedding of Christian Rosenkreuz）という2冊の宣言書が、それぞれ1615年と翌1616年に相次いで出版されました。これら3冊の宣言書の著者たちは、自分たちがバラ十字友愛組織の一員であるとともに、「チュービンゲン・サークル」（Tübingen Circle）と呼ばれる神秘家の団体にも属していることを公表しました。この団体の人々は誰もが、ヘルメス思想と錬金術とカバラを熱心に研究していました。その後数年の沈黙を経たのち、1623年に、このグループは再びその名を世間に知らしめました。パリの数々の通りに、次のように書かれた謎めいたポスターを張り巡らしたのです。「私たち、すなわち〈バラ十字の高位の大学〉の評議員は、見える方法でも見えない方法でもこの街に滞在しているが、それは〈正義の人〉が心を向ける〈至高の存在〉の恵みのおかげである」。



この『あなたへの訴え』の目的は、バラ十字会の歴史や思想をご紹介しますことではありません。この文書をもって、『バラ十字友愛団の声明』の出版の400周年を記念したかったのです。資料に基づく歴史から言えば、この宣言こそがバラ十字会の礎^{いしづえ}となったからです。ここで「資料に基づく歴史から言えば」と申し上げた理由は、伝承によれば、バラ十字会の起源は古代エジプトの第18王朝の神秘学派にまで遡^{さかのぼ}るからです。ちなみに、17世紀の有名なバラ十字会員であった、ミヒヤエル・マイヤーは、自著の中にこう記しています。「我々の起源はエジプトでありバラモン教であり、かつ、エレウシス神秘学とサモトラキ神秘学であり、さらには、ペルシャの賢者、ピタゴラス学派、アラブの民である」。

これまでの伝統を忠実に守りながら、2001年に私たちは『バラ十字友愛組織の姿勢』(Positio Fraternitatis Rosae Crucis)という題の宣言書を公表し、人類の現状に対する私たちの見解を表明しました。特に、経済、政治、テクノロジー、科学、宗教、道徳、芸術など、人類の主要な活動の現状についての見解を述べたのですが、もちろん、環境保護という点についても述べています。この宣言書は、様々な歴史家から過去の3冊の宣言書の延長にあたるとされ、すでに世界中の数百万人以上の人々に愛読され、これらの方々が自身の足もとを見つめ直したり、現代について深く考えたりする際の基礎となっています。学校の推薦図書に指定している国もいくつかありますし、国立図書館や市立図書館などで、誰もが閲覧できる国もあります。もちろん、インターネットを利用すれば、どなたでも読むことが可能です。

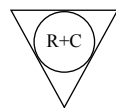
『バラ十字友愛団の声明』の発行から400年が過ぎ、また『バラ十字友愛組織の姿勢』の発行から13年を経た今、人類全体にかかわる、特に憂慮される事柄について、もう一度声を上げる必要があると私たちは考えました。確かに、時が過ぎゆくのは当然のことですが、十年ひと昔どころか一年ごとにはっきりと具体化してくる人類の未来の姿を見ると、そこには、いまだに拭^{ぬぐ}い去ることのできない大きな心配が生じます。よく言われる「危



機」というものが、深く根づいてしまった国が多数あります。それでも私たちは、未来に対して悲観的になっていませんし、終末が訪れると考えてもいません。この点に関しては、2011年12月に発行した文書『バラ十字会による予言』の中で、私たちは次のように述べました。「私たちは、未来は明るいと考えています。現在私たちが経験している困難な時代は、その本質を見抜くならば、『どうしても必要な過渡期』なのであって、そこをくぐり抜けることによって、人類は自体を乗り越え、再生することができるに違いありません」。

『バラ十字会友愛組織の姿勢』と同じく、この『あなたへの訴え』も、政治家や学者などの一部の人のためのものではなく、この文書が公表されたことを知り、読んでみようとお考えいただいたすべての皆さんに向けて書かれています。無闇に不安を煽り立てている文章だとお考えになれる方もいらっしゃるかもしれません。少し理想主義的すぎるのではないかと感じられる方もいらっしゃると思います。しかし、この文書は、決して、ある独断的な意見を押しつけようとするものでもありませんし、理屈ばかりの空論を並べたものでもありません。この文書を通して、私たちは単に、いくつかの理念をご紹介しますとしているのです。それは、バラ十字会会員の方々にとっては、特に目新しいことでも独創的なことでもないかもしれませんが、しかし、これらの理念は、過去のいかなる時代よりも、今、注意深く検討することが必要とされていると私たちは考えています。具体的に言えば、私たちが訴えたい事柄とは、精神性の重視（spirituality：スピリチュアリティ）、人間の尊重（humanism：ヒューマニズム）、環境の保護（ecology：エコロジー）です。私たちの見解では、この3つは、体・精神・魂というあらゆる側面で人間が再生し、望んでいる幸せを見いだすために欠かせない条件なのです。

バラ十字会 AMORC 最高評議会
The Supreme Council of A.M.O.R.C.

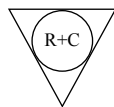


精神性の重視（スピリチュアリティ）についての訴え

Appeal For Spirituality

全世界とまでは言わないまでも、多くの国が現在見舞われている危機は、社会や経済や金融という、一部の分野だけの危機ではないと私たちは考えています。これらは、文明そのものに危機が迫っているという事実から生じた結果にすぎません。言い方を換えれば、本当に危機に瀕^{ひん}しているものは、人類そのものにほかなりません。では、それは、どのような種類の危機なのでしょう。この問題の一部には、『バラ十字友愛組織の姿勢』の中ですでにお答えしていますが、もう一度立ち返って、詳しくお伝えする必要がありますと私たちは考えています。バラ十字会の哲学と理想に照らしてみると、ある国の住民でもあり、バラ十字会員でもある私たちにとって、そうすることは避けては通れない義務であるという考えに行き着くのです。また、私たちに関してこれまで言われてきたこととは正反対に、バラ十字会員は精神性を重視しているからといって、そのために物質的なものに対する関心が弱められているということは決してありません。このように言える最大の理由は、当会が考える精神探究の最終的な目標は、いつの時代も、自身の人生の支配を実現することにあるからです。

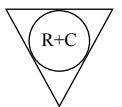
まず、あなたにお伝えしたいのは、心の深奥にかかわる危機に人類がおちい陥っていると、私たちが考えているということです。私たちの見解では、このことは否定しようのない事実であり、そこには、2つの主な原因があります。第1の原因は、はるか昔に成立した世界の主要な宗教が、現代に生きる男女が自らに問いかけている存在論的な疑問の数々に答える能力を、もはや失っていることです。彼らの教義も道徳律も、もはや、多くの人に受け入れられていません。このことによって、多数の人々が日増しに自暴自棄になっている理由が説明されます。そして、人の心にはぽっかりと穴が空いてしまったわけですが、その穴を埋めようと努力する人さえ、もはやほとんどいません。そして同時に、心の深奥にかかわる危機の第2の原因として、次のことが指摘できます。いわゆる“先進国”と呼ばれる



国々では、物質至上主義が社会で影響を増し、あり余るほど物を手に入れて、過剰なまでに消費することに幸福を見いだすように、人々を煽り立てています。こうした風潮が、マネー万能主義をいやがうえにも助長し、お金の本来の用途を歪めてしまったのです。お金は今や、手段ではなく目的そのものとなり、お金を所有することを人は追い求めています。お金そのものには何の価値もないにもかかわらずです。

こうした事態は、既成宗教には未来が全くないことを意味しているのでしょうか。この問いにお答えする前に再度お断りしておきますが、バラ十字会は宗教に敬意を抱いています。様々な宗教が所有していて、その宗教の信者が、自分たちの信仰を日々具体化できるようにしている、様々な尊い要素のすべてに敬意を抱いているのです。しかし、すでに申し上げた通り、様々な宗教が起こった頃とは、人々の善悪の判断も、精神的な傾向も大きく変わっています。そのため多くの人、特に若者の目には、既成宗教の信条が時代遅れなものとして映っています。これまでと変わることなく、自分たちの教えを、時代に合わせて新しくする能力を持たず、その方法も知らず、あるいは、それを望まないのであれば、そう遠くない将来に、既成宗教は姿を消す運命をたどるでしょう。その結果、宗教の中で生き延びるものは、その宗教そのものの誕生を讃えるために数世紀をかけて作り上げられた遺跡と、聖なる文章であると考えられている聖書やコーラン、ウパニシャッド哲学書や仏典などの宗教文献だけになるでしょう。

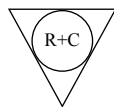
お金に話を戻すと、投機などの歪んだ目的や、人々を[あおり](#)立てるための手段に、お金に変質してしまうことが問題なのです。本来お金は、社会生活を営む上で、交換手段として欠かすことのできないものです。体が健康であるために必要な物を手に入れ、生きていることで得られる正当な喜びを享受するために、私たちはお金を必要とします。しかし、時が経つにつれて、お金に価値を置きすぎたあまり、お金が人間の活動のあらゆる分野を左右し、実質的に支配するまでになってしまったというのが実情です。今日では、お金は崇拜されるべき対象という地位を獲得し、おそらく世界



最多の信者を抱えた宗教としての役割を果たしています。不幸なことに、その代償として私たちは、誠実さや正直さ、正義感や連帯感などといった、最も基本的な道徳的価値を日々失いつつあります。その結果お金は、かつてないほど、墮落をもたらす媒体になり果ててしまいました。

このように述べたからといって、バラ十字会員のことを、貧しくあることを好んでいる人たちであるとか、物質的な豊かさと精神的な豊かさが相容れないと思っている人たちであると、お考えにならないでください。人類は、地球に出現して以来変わることなく、生活の状況を改善しよう、幸せになろうと努め続けてきたのです。生活を豊かにしようとするのは人間の心の深くに根差している本性であり、豊かさを実現することは、「進歩」という名に値する事柄です。しかしながらこのことは、生きる目的がお金持ちになることだということを意味してはなりません。ただ、貧しくありたいなどと望むことは、自然なことでも当たり前のことでもないということを目指したいのです。さらに言えば、物質的に、すなわち経済的に、極めて貧しい状態にあるということが、その人を人間的に向上させることはありません。お金をたくさん持っていることが、精神の気高さの尺度とはならないのと同じように、あるいはそれ以上に、貧しいことが精神の気高さを意味することはありません。

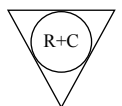
誰もが幸せを、多かれ少なかれ求めています。幸せは、物質的な事柄と精神的な事柄がバランスした状態に備わるのであり、どちらか一方を切り捨てて実現されるのではないというのが私たちの見解です。ですから、本来享受すべき人生の喜びを自分から奪ってしまうほどにまで、精神的な事柄だけに専念する人は、ひとりとして幸せにはなれません。同じことは、幸せの基礎が、物を所有することだけにあると考える人にも当てはまります。富裕層と呼ばれる人の中に、大きな不幸を抱えている人が多数いる理由がこのことから説明されます。それは、「この世の金銀財宝のすべて」でも満たすことのできない内面の空洞にさいなまれていることが理由です。「お金で幸せを買うことはできない」という、よく耳にすることわざ



があります。幸せをもたらす要素のあるものは、確かに、お金で買えることもあるでしょうが、幸せそのものを買うことはできません。

人間とは、物理化学的な一連の作用によって生命を保っている、物質からなる体であるだけでなく、魂を持つ存在でもであると想定するならば、魂の方にもある種の栄養が必要であることが容易に理解できます。この栄養がスピリチュアリティ（spirituality：精神性）にあたります。しかし、スピリチュアリティとは何でしょうか。これまで述べてきたことから言えば、スピリチュアリティは宗教心よりも広い考え方です。つまり、宗教がどれほど敬服すべきものであるとしても、スピリチュアリティは、創造主や神を信仰して、ある宗教の信条に従うことに限られているではありません。そうではなくて、スピリチュアリティとは、生きることの深い意味を探し求めることと、自己の内部にある最良の部分に少しずつ目覚めていくことです。ところが今日では、生きることの意味への問いかけや自身を向上させようとする努力が、無残なまでに不足しています。このことが理由で、この数十年間にわたって、世界は混沌とした状況に陥り、すっかり勢いを失ってしまいました。

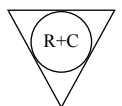
ほとんどの国で、多くの人々が、出口の見えない暗いトンネルの中を歩んでいると感じています。人々を導き、社会を治める立場にある人たちがさえそうなのです。さらに、見いだそうとしている希望の光は、自分自身の内面からしか生まれられないものであり、この光の源は外の世界にはないのだということに、多くの人々が気づいていません。こうした現状を前にすると、人類が直面している様々な問題を解決するために、私たちは、物質至上主義ではない何かに目を向ける必要、すなわちスピリチュアリティの重視という立場に立ち返らざるを得ません。このように申し上げても、物質とは別の要素としての、精神や魂の存在を認めない方もおられることでしょう。もちろん、どのようにお考えになるかは個人の権利です。しかし、もしあなたが、魂の存在を認めない人のひとりであるならば、あなたに、



以下のように問いかけることをお許してください。少しだけ時間を取って、あなた自身の答えを出していただきたいのです。

- ◆ 「良心の声」として多くの人に知られているものは、どこから来るとお考えになりますか。
- ◆ 慈悲、寛容、思いやり、愛情などの様々な美德が、もともと人間に備わっているのはなぜなのでしょう。
- ◆ 絵画や彫刻や音楽や、その他の分野の、極めて美しい芸術作品の数々は、その作者の思考だけによって生み出されるものであると、本当にそうお考えでしょうか。
- ◆ 医師が死亡の判断を下した後息を吹き返し、“あの世”と呼ばれる場所で“見たり”、“聞いたり”したことを記憶しているという人が、世界中に何百万人もいるという事実は、どのように説明したらよいのでしょうか。
- ◆ 人類史に名を残している偉大な思想家や哲学者の数々が、紛れもない事実であると認めているのに、魂の存在が、単なる思い違いに過ぎないなどということが本当にあるのでしょうか。

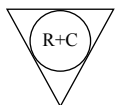
すべての人が魂を持っていることには、疑いようがないと私たちは考えています。バラ十字会の観点から申し上げれば、人間一人ひとりが意識を持ち、考えたり感情を抱いたりできるのは、人が魂を持っているおかげです。そして、人間の善良な性質も、魂の中にあります。私たちがこの地球という星に暮らしているということは、まさに、魂に備わっている様々な美德を自覚し、自身の判断と行動を通じて、その美德を外に表すためです。残念なことに、そのようにしようと努力している人は、宗教を信仰している人を含めても、あまりにも少ないのです。そのため、悪意、寛容に欠ける心、利己主義、妬み、傲慢さ、憎しみがこの世に存在し、そこから、不



正や対立、不平等、苦悩が生じています。悪は、善がないところにだけ存在するという事は事実であり、また、悪の源は人間の振る舞いにあります。ですから悪は、神のなせる業でも悪魔しわざの仕業でもありません。悪魔などというものは、その手先とされる使い魔も含めて、存在したためしはありません。

では、神についてはどうでしょうか。過去の長い歳月にわたって、神が存在すると考える人たちは、人間の姿をしたある存在が、天のどこかにいて、あらゆる人間の運命を支配していると考えていました。今も昔も、神を喜ばせて神の好意を得ようと人々は、聖典を元に成立した様々な宗教が支持している戒律に従っています。しかし見たところでは、神を信仰し、神によって啓示として与えられた教義を信奉するだけでは、幸せを得るには十分ではないようです。そうでなければ、信仰を持たない人々を除いた、世界中にいる何十億という数の宗教の信者が幸せであることでしょうか。ところが、現実にはそうではありません。このことは、すべての人が望んでいる幸せは、宗教を超えたところにあるということを意味しています。つまり、幸せは、先ほど定義したスピリチュアリティの中に備わっているのです。

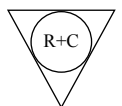
いわゆる神（創造主）についての当会の考え方をご説明する前に、神（創造主）が存在すると当会が考える根拠と、無神論が、考え方そのものとしては考慮に値するものであるにもかかわらず、判断としてはやはり誤りであると私たちが考える理由についてお話したいと思います。まず、神が存在すると考える人も、存在しないと考える人も、宇宙が存在していることは否定できません。ですから、合理的に考えるならば、宇宙は、ある創造的な働きをする原因から生じた結果であるはずで、そして、宇宙を支配しているのは様々な法則であり、それらは、科学に詳しい人ほど感嘆せずにはいられないような素晴らしい法則の数々です。そうすると、宇宙の原因は極めて高い知性を備えていると言えます。ですから、この原因のことを神（創造主）と考え、この神は人格を持たないけれども極めて高い知性が



あり、この知性が、宇宙の始まりに存在したと考えてはどうでしょうか。宇宙の最初は、原子ほどの大きさをしたエネルギーの核であり、今日存在する銀河や恒星や、地球を含む惑星などの天体が、すべてそこに潜在的に含まれていたという現代の宇宙論を思い起こす方もいらっしゃることでしょう。

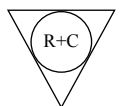
ですから、神ということに関して、私たちが探究することができ、また探究すべき疑問は、神と呼ばれるものが存在するかないかということではなく、人間の暮らしに神がどのように関わっているのかということです。当会の見解では、宇宙や自然界や私たち人間の中に、様々な法則という形で神は表現されているのであり、それらの法則に、私たち人間がどの程度敬意を払うのかという度合いに応じて、神は人間の暮らしにプラスの影響を与えます。ですから、バラ十字会員はいつの時代も、これらの法則を研究する努力を続けてきました。神と、人間の暮らしに神が果たしている役割をこのように捉^{とら}えることは、宗教ではなくて科学に近いと、あなたはお気づきになることでしょう。実際に、バラ十字会 AMORC が科学と対立したことはなく、常に科学と友好的な関係を保ってきました。ちなみに、当会が 20 世紀の初めから運営を続けているバラ十字国際大学には、物理学科が設置されています。

いまだかつてないほどに、宗教の信仰からスピリチュアリティ (spirituality : 精神性) の重視へと私たちが転換するべき時期が来ています。これは、神を単に信じるということが、神の表現である法則を良く知るということにとって代わることを意味しています。そしてこの法則とは、普遍的な法則と、自然界の摂理と、心の世界に働いている法則にあたります。私たちが求める幸せは、物質的な幸せも含めて、この知識と、そこからもたらされる英知の中に見いだされることとなります。バラ十字会に古くから伝わるある格言は、「無知こそが、そして、ただひとつ無知だけが、人間が解放されなければならない事柄である」と述べています。実際のところ無知こそが、人間が、自分や他の人々や環境に対して犯すことのある、



もっとも愚かな行ないの根本にあるのです。同時に無知は、人間の品位を傷つけ、十分な自己実現をなし遂げるのを妨げる、様々な迷信の源でもあります。ですから、スピリチュアリティを重んじるという考え方を、あなたの生活にも取り入れてください。言葉を換えれば、単に“生きもの”であるのではなく、“生きている魂”にふさわしい生き方をしていただきたいのです。

当会が政教分離を支持していると聞いて、意外に思われる方がいるかもしれません。東洋でも西洋でも、また、歴史ある宗教でも新興宗教でも、宗教が、ある固定的教義を基礎にしていて、専制的な教祖を中心とする組織体制を作っている限り、政教分離が絶対に必要であると私たちは考えます。政教分離によって、社会は、神権政治のような異常事態まぬがを免れることができるからです。しかし一方で、スピリチュアリティが、知識と英知の探究として当然のこのように実践され、日々の暮らしの一要素になる日が来ることを私たちは心から望んでいます。その日から、政治は哲学と一体となり、したがって「英知に対する愛」からインスピレーションを受け取り、政治が営まれることになるでしょう。ギリシャ文明の最盛期がそうでした。この時代が、民主主義の生まれた時期であり、新しく生まれた数々の考え方とともに「国民が国家の長を選ぶ」という考え方が生まれたのもこの時期だったということを思い起こしてください。そして、次のことも忘れないでください。ギリシャの哲人の大多数がスピリチュアリティを尊重する人々であったのです。

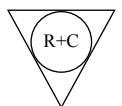


ヒューマニズム（人間の尊重）についての訴え

Appeal For Humanism

当会がスピリチュアリティについて訴えたことに対して、ご賛同をいただけないとしても、日々の暮らしの中に、すべての人を尊重する精神（humanism：ヒューマニズム）を示していただくことをお願いしたいのです。2005年9月にバラ十字会 AMORC が公表した『人間の義務に関するバラ十字会の宣言』の第10項には、次のように書かれています。「すべての人を自分の家族とみなし、いかなる状況でも、どこに住んでいても、この地球の住民として行動することは、ひとりひとりの人間の義務です」。この文が意味しているのは、人間尊重の精神を、自身の行動の規範と哲学にするとということです。すべての人がお互いにこの義務を果たすならば、個々の人や民族や地域を超えた全体である「人類」という語がその意味を十分に発揮し、友愛の精神を表現する力強い言葉となり、世界中で人間を尊重する気高い行いがなされることでしょうか。このことが実現されたとき、私たちは、すべての国民、すべての国家の間に平和が保たれるようになったと考えることができるのではないのでしょうか。

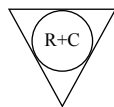
しかし、「人間を尊重する」とはどういう意味なのでしょう。まず、すべての人のことを血のつながった兄弟姉妹であると考え、互いの相違は単に表面的なことに過ぎないと考えるということが含まれます。とは言うものの、原初の一組の男女、旧約聖書を文字通りに信じる人たちによれば、それはアダムとイヴですが、この2人がすべての人間の祖先だという教義に、バラ十字会が賛同しているわけではありません。それが存在論的な見解だとしても、科学的な見解だとしても、この主張には根拠がないからです。もし仮にこの主張の通りだとすると、人類の血統は、近親交配の結果、肉体面でも精神面でも急速に退化してしまったことでしょうか。ヒトは動物たちの中から出現したというのが当会の見解です。そしてこの動物たちも、この地球に最初に出現して以降、現在に至るまで、とても長い時間をかけて、ゆっくりと生物進化の過程を経てきました。いずれにしても、私たち



は誰もが、同じ構造の遺伝子を持っているうえに、血管を流れる血液も、基本的には万人共通のものです。このように考えると、私たち人間同士には、友愛という言葉以上の強い絆きずながあり、誰もが人類という集団の一員なのです。

ご存じの通り、人類は、3つあるいは4つの人種に分けられると述べる人類学者がいます。その4つとは、白色人種、黄色人種、黒色人種、そして赤色人種です。しかし、ここ数年の間に、このような区別の仕方をする学者は、ほんの一握りになりました。大半の学者は、人類というより広い捉え方とらを選んでいますが。その背景には、おそらく、人種差別主義者から“生理学的な”特徴という論点を一掃してしまいたいという望みがあるのかもしれない。しかし、いくつかの人種が存在するのを認めることが、必ずしも人種差別にあたるわけではありません。たとえば、ヨーロッパ系、アジア系、アフリカ系の人々は、すべてヒト科に属しながらも、形態学上明らかな違いを持っていることは否定できない事実です。人種差別とは、ある人種が別の人種より優れていると考えたり言い立てたりすること、特に、自分の属する人種が、他より優れていると唱えることを指すのではないのでしょうか。反対に、真のヒューマニスト (humanist: 人間尊重の精神に従って生きている人) は、すべての人のことを、人類という唯一の全体を作り上げている極めて多くの細胞にあたると思います。

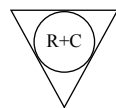
自分と同じ“人種”に属し、同じ国籍を持ち、同じ政治的な見解を共有し、同じ宗教を信奉している人の方を好む傾向は、多くの人に見られます。そのような人といると、気持ちが楽になり、安心感を覚えるからです。しかし、それだからと言って、それ以外の人を拒絶したり、さらに悪いことには、憎んだりする言い訳にはなりません。ある人が他人の尊厳おとしを貶めることがない限り、ヒューマニストの名に値する人は、自分と異なるあらゆる人を尊重します。つまり、真のヒューマニストが示すのは寛容さであり、真のヒューマニストは、人を見下すような振る舞いをしません。このことは、聡明さの表れです。というのも、寛容心に欠けていることは、様々な



現れ方をしますが、一般的に言えば、愚かさ、あるいは傲慢^{ごうまん}さ、もしくはその両方に見られる特徴だからです。しかし残念ながら、この心の弱さ、より具体的に言えば性格のこの欠点が、極めて多くの人に見受けられます。このことが理由となって、人間同士のいさかいが数限りなく起っています。

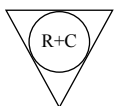
寛容さと聞くと、会員の方であれば、バラ十字会 AMORC のモットーが、「厳格な独立のもとでの最大限の寛容」(The greatest tolerance within the strictest independence.) であることを思い起こされたでしょう。当会には、キリスト教、ユダヤ教、イスラム教、仏教や、その他の宗教の信者とともに、いかなる宗教も信仰していない方がいらっしゃる訳が、このモットーから分かります。さらに、無神論を支持する会員もいらっしゃるのですが、そのような方々からも、当会の友愛精神は高い評価を得ています。また、会員の方々の属している社会は実に種々さまざまです。また、政治的見解も十人十色で、会員同士の意見がまるで正反対の場合もあります。このように、バラ十字会員が、互いの違いを超え、相手に対する敬意を示し合い、協調した関係を保つことができるのですから、人類全体にも同じことができないはずはありません。

「互いに愛し合いなさい」という、イエス・キリストの命令をご存じのことと思います。この命令の内容をキリストは、「人にしてほしくないと思うことを、他の人にしてはなりません」と述べて説明しています。宗教を信仰しない人であろうと、いかなる宗教の信者であろうと、このひとつの命令に、他の人との関わりの中で誰もが取らなければならない態度の理想が凝縮されていることに対しては、どなたも異論はないことでしょう。イエス・キリストのことを、精神的な指導者であると見なさないことも、救世主であると見なさないことも、あるいは、キリスト教の畏敬する罪^{たぐい}をあがなう人であると見なさないことも、個人の自由です。しかし、彼が類まれなるヒューマニストであったことと、さらに、敵を愛することさえも人々に勧め、協力と平和の大切さを説き、その時代の道徳観に革命をもたらしたことは、私たち一人ひとりが認めなくてはなりません。



「すべての人が自分自身のために」生きることが文化として定着したという意味で、今日の社会は、あまりにも個人主義が強くなりすぎてしまいました。そして、物質至上主義と、この数十年にわたって世界が直面している政治と経済の危機とが結びついて、自分自身の幸福のことだけしか考えず、他の人たちへの関心を失いつつある人が日増しに増えています。こうした姿勢は、同じ社会に暮らす人同士を遠ざけ、人間味のない社会を作り出します。それに加えて、様々なコミュニケーション手段が、直接交流することによって代わり、親しい人やご近所と顔を合わせてゆっくりとおしゃべりをするなどということは、もはや過去の話となってしまいました。一方で、あれやこれやのソーシャル・ネットワーク・サービス上で、(仮想の)友だちがたくさんいることが自慢の種になっているのです。なんとという皮肉な事態でしょう。そろそろ原点に立ち返って、他の人と直接顔を合わせて、魂の会話とまでは行かなくとも、心の通った会話をすることの楽しさを私たちは見直した方が良いのではないのでしょうか。

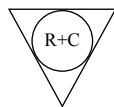
『バラ十字友愛組織の姿勢』の中には、次のように書かれています。「最も裕福な国家と最も貧しい国家との差が止まることなく拡大しつつあることに私たちは注目しています。ひとつひとつの国の中でも、最も貧しい階層と最も恵まれた階層の間にも、格差の拡大という同じ現象を見ることができます」。この宣言書が書かれた後も、この状況は悪化する一方です。ヒューマニストであれば、こうした現状に満足していただける人は一人もいません。特に、貧困や生活必需品の不足に関して言えば、それは避けることのできない不幸などではなく、ある地域のレベルから国際的なレベルにまで至る様々な経済活動によってもたらされる生産物や天然資源が、上手に運用管理されていないことが原因です。別の言い方をすれば、このような状況が生じた最大の原因は、人間のエゴイズムであり、協力意識が欠けていることなのです。しかし、気づいていようとしまいと、人間が今後も生き続けていけるかどうかは、分け与える能力と協力する能力が、人間にあるかどうかにかかっているのです。このことは、過去のいかなる時代よりも現在に、しかも、同じ国民同士に限った話ではなく、国家同士にも当



てはまります。神秘学的な表現を使えば、グローバル化の結果として、それぞれの国のカルマがこれほどもつれ合ってしまった以上、今なお困窮にあえいでいる人々に配慮しないならば、長い目で見て繁栄を続けられる国はひとつもありません。

グローバル化の話題に触れたので加えて申し上げますと、この流れは後戻りできないものだと思います。ですから、これに異を唱えることには意味がないでしょう。人類は、地上に現れたときから、活動の場と交流範囲をしだいに拡大してきました。最初は家と家に始まり、村と村、やがて国と国の結びつきへと広がり、ついには大陸同士の結びつきにまで発展しました。交通と通信の発達によって、地球全体はひとつの国になりました。このことは自然な流れであり、人々の間に相互理解と交流が進む方向へと向かうわけですから、私たちはこれを歓迎すべきなのでしょう。しかし、相互理解と交流が進んだのは初めのうちだけでした。文化や物の見方の違い、政治や経済のシステムの相違という問題にぶつかってしまったのです。そして、これらの違いによって、不平等が激化するという事態になっています。ですから、相互理解と交流を加速させ、すべての人の幸せと健康と繁栄にとって有益になるように、それに人間尊重の精神という方向性を与えなければならないと私たちは考えているのです。

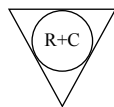
ここで、別のテーマに話題を変えさせていただきます。バラ十字会が思い描き望んでいる人間尊重の精神の妨げになっているのは、個人主義だけではありません。もう一つ重大な要素があります。それは、工業生産が、機械化、ロボット化されるようになったため、社会における機械の重要性が増したということです。機械の役割は、人にとって極めて困難である作業を助けるということに限られていたはずであったのに、効率性と収益性という理由から、機械が人間に取って代わるようになりました。社会において過剰なまでに機械が用いられたことは、社会から人間味が失われるばかりか、失業という問題が悪化する要因のひとつになっています。ですから、機械から人の手に仕事を戻すことを、可能な分野から直ちに始め



なければなりません。同時に、「時は金なり」という言葉に表れている物質至上主義の固定的思考を打破して、そこから脱けだす必要があります。

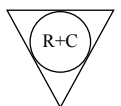
ところで、人間は、人種にかかわらず同じ血が流れている兄弟姉妹ですが、このことだけが人と人の絆なのではありません。すべての人は、「普遍的ソウル」(Universal Soul: 宇宙の魂)という同一の源から発した魂を持つソウルメイトなのです。それぞれの魂が違っているのは、内面の進歩の違い、つまり、自分自身の尊い性質をどの程度自覚しているかということが異なっているからです。付け加えさせていただくと、すべての人が何度も人として生まれ変わるという考え方を当会は支持しています。そして、この生まれ変わりは、自身の尊い性質をはっきりと自覚し、この物質世界で表すことのできる最高の叡智の状態に達するために必要な回数だけ繰り返されることとなります。「考え方」と呼ぶよりは、むしろ「法則」と呼ぶことがふさわしいのですが、このことをもしあなたが事実として受け入れるならば、心の成熟度、洞察力の深さ、責任感、人間尊重の精神といった点で、一人ひとりが異なっている最大の理由は、生まれ変わりの回数の違いにあるということをお納得していただけることでしょうか。こうした観点から見ると、他の人より優れている人間などいません。魂の経ていく旅において、単に、道の先の方を歩んでいるだけなのです。

ヒューマニストは、神が存在するとたとえ考えないとしても、人間を信頼しなければなりませんし、人間には、自身の限界を乗り越えて、自身の内面のより良い性質を表す能力があることを信じなくてはなりません。これまでの人類の歴史を振り返り、現在の状況を見ると、人間は自分本位に生まれついているのであり、弱さと欠点を持ち、そのため、互いを傷つけ合う運命にあると感じられるかもしれません。しかし、表面上はそうであっても、意識レベルという点で、人間は大きな進歩を遂げています。不正や不平等に対して立ち上がり、反戦と平和を唱え、独裁や全体主義の政権を糾弾し、友愛精神の必要性を訴え、貧しい人々に手を差し伸べ、自然保護に携わるなど、様々な行動を起こす人々が世界中でますます増えています。



こうしたことが起こるのは、プラトンの言葉通り、人間が魂の促しに影響されて、善と美と真実にあこがれ、それを望み求めるからにほかなりません。私たち一人ひとりが行わなければならないのは、この魂の促しに気づき、その声に従って行動することだけです。

人間は、とても気高く創意に満ちた自身の性質を引き出すことによって、思いもよらぬ快挙をなし遂げる能力が自身に備わっていることを、あらゆる時代に、身をもって示してきました。その分野が、建築であったり、工業技術であったり、文学、科学、芸術であったりしても、あるいはまた、同じ国民同士や他国民との交流という分野であっても、人間は、知性と創意、協調性、友愛精神を示してきたのです。そしてこのことは、私たちに勇気を与えてくれます。なぜなら、善を行いたいと思い、あらゆる人の幸福のために労を惜しまないという傾向が人間に備わっていることが、ここに確かに示されているからです。まさにこの理由から、人間は、ヒューマニストでなければならず、人間自体を信頼しなくてはなりません。

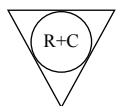


環境保護についての訴え

Appeal For Ecology

環境保護に関心を持つことなしに、ヒューマニストであることはできないと当会は考えます。すべての人の幸福を心から願うならば、人が生きる場所であるこの地球の環境を保護することに関心を持たないわけにはいきません。私たち一人ひとりが知っている通り、現在の地球は危険にさらされており、その責任の大半は人間にあります。例を挙げれば、様々な種類の環境汚染、生態系の破壊、行きすぎた森林伐採、動物の大量殺戮^{さつりく}などです。温室効果について言えば、このことが始まったきっかけは人間ではないとしても、少なくとも、地球の温度の上昇が加速している原因は、人間の活動、中でも温室効果ガスの排出に責任があると、大部分の科学者が指摘しています。さらに言えば、暴風や様々な原因の洪水の発生件数の増加と、地球の温度の上昇には関連があると多くの科学者が考えています。そして、これらの暴風と洪水によって、家屋などが破壊され、人命が失われています。私たちが地球に加えている好ましくない行ないの数々を止めるために、世界規模で早急な対応を取らなければ、地球は、数十億もの人が住める場所ではなくなることでしょう。ひょっとすると、ひとりも住めなくなるかもしれません。

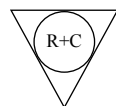
古代の文明では、地球は生きとし生けるものの母と見なされ、母なる大地、もしくは地母神^{じぼしん}として崇められていました。現在では、オーストラリアのアボリジニー、アマゾン流域の先住民、アフリカのピグミーなど有名ですが、祖先の文化を忠実に保持している一部の民族を除けば、このような精神性は見られません。現代社会では、大地は様々な利益の源であるという捉え方^{とら}が優勢となり、人々は貪^{むさぼ}るように開発を進め、地球の健康に害を与えています。地球について語っているのに「健康」という言葉を使った理由は、地球が生き物であり、意識さえ持っていることが明らかだからです。このことを納得するためには、自然界のいたるところに表れている地球の生き生きとした力と、鉱物や植物や動物に表現されている地球の知



性について考えるだけで十分です。この3つによって、地球の美が構成されていることは言うまでもないでしょう。地球の美しさは、あらゆる人の心を揺り動かすものであり、たとえ無神論者であっても、地球のことを極めて大切なものだと見なし、最高の創造物であると考えます。

科学的な調査の結果、約45億年前に地球が誕生し、40億年ほど前に生命が生じ、そして、300万年ほど前に人類が出現したことが知られています。しかし人間は、このわずか100年足らずの間に、過剰なまでに自然に手を加えてしまった結果、地球環境は、私たちの未来と同じく脅威にさらされており、その状況は国際サミットの議題として取り上げられるほど悪化しています。残念ながら、これらの国際会議は建前論にとどまり、現状を変えるにはお世辞にも十分とは言えない合意事項だけが得られることになってしまっています。バラ十字会 AMORC は、環境保護に関する意識の向上に貢献することを心から望んでいます。そして2012年には『バラ十字会はあなたの心の奥底に環境保護を訴えます』という題の文書を発表し、リオデジャネイロで開かれた「地球サミット」の期間中に、ブラジルの国会上院において、当会の世界総本部代表がこの文書を読み上げました。同じような専門家会議は様々な国で開催されていますが、発表になる決定事項は、現状を考えれば気休めにもならないほどわずかな内容にとどまり、しかも、社会経済上のあれこれの利害関係のはざままで、対立の要因となり続けています。

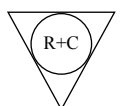
世界でも最も裕福な国々を含む先進諸国の大半は、経済を優先させ、環境を悪化させながら、そのような地位を築いてきました。過剰生産と過剰消費を基にしたこの経済モデルを、発展途上国が採用したとしたら、人類が現在直面している数々の環境問題は、劇的に増加し、また悪化することでしょう。しかし残念ながら、まさにこの方向に、状況は現在も進んでいます。しかし、これらの国々に示されてきた手本がどのようなものであったかを考えれば、彼らを責めることなど誰にもできません。こうした現状をふまえると、どんな困難があろうとも、新興諸国がこの経済モデルと悪



しき手本から決別し、経済と環境保護が一体となったシステマチックな取り組みに置き換えることができるようになることを、私たちは心から願うばかりです。もしもこのことが実現したならば、人類すべてにとっての偉大な、そして有益な先例となることでしょう。

バラ十字会は、人間の魂に深く関わる事柄を研究することだけに没頭している夢想家集団ではありません。私たちが神秘家、すなわち神秘哲学の探究者であることに間違いはありませんが、語源から考えると神秘家という言葉の意味は、人生にまつわる神秘の研究に興味を抱く者となります。そして、宗教家は死後の世界に楽園があると語りますが、私たちは、楽園を造るべき本当の場所はこの地上であることを知っています。そのためには、天然資源と人間が作り出した生産物の管理を、人間自身が分別を持って行えるようにならなければなりません。そして、そのためには、様々な分野の、様々な規模の経済活動によって、すべての国とその国民が、平等かつ確実に利益を享受できるようにすること、そしてこのことが、人間の尊厳と自然への敬意から行われることが必要です。

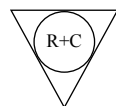
環境保護に配慮した経済活動を押し進める方向に人を向かわせるものがあるとしたら、それは何でしょう。地球温暖化とそれに伴う天変地異の犠牲になるかもしれないという恐怖心でしょうか。どうやらそれは違うようです。というのも、たいていの人には、天変地異のことを、自分には降りかからないものだと思う傾向があるからです。自分個人が財産を失うか怪我をしない限り、単に犠牲者に同情するだけで、様々な寄付を進んで行くことはあるとしても、そのような災害が自分に降りかかりませんようにと祈りながら日常生活を続けるだけで、何も変えようとはしないのです。これ以上の被災者を出して、人類全体がついに現実を直視する日が来るまで、私たちは待たなければならないのでしょうか。先進富裕国もその例外ではなく、むしろその危険性が一番高いのが、これらの国々です。とにもかくにも、母なる地球の病状は深刻であり、多くの人々がそこで暮らすことができなくなる危険性があります。



地球上のあらゆる地域で大規模な自然災害が増え、その被災者の数が増えています。このことは別にしても、特筆すべきことがあります。人間の平均寿命は、過去の 20 ～ 30 年にわたって、ほとんどの国で着実に長くなってきましたが、それが減少に転じつつあることを複数の科学者が指摘しています。それと同時に、ガンの発症件数が急増しています。なぜなのでしょう。その主な原因は、私たちが呼吸している空気や、飲んでいる水や、摂取している食物が、硝酸塩やリン酸塩、農薬や着色料、保存料などによって極度に汚染され、それらがいやおうなしに臓器や細胞や、遺伝子にさえ変化をもたらしていることにあります。これに加えて、アルコールや煙草や各種の薬物の摂取が急激に増えているという事実がありますので、近い将来、多くの人の健康が、先ほど述べたような危険にさらされるとしても、それほど驚くべきことではありません。

これらの要因にも増して重大なある危険が、多くの人の健康を脅かしています。それは、コンピュータや携帯電話、その他の電子機器から放出される、大量の電磁波です。電磁波公害という問題の深刻さの程度を見積るには時期尚早ですが、様々な身体の不調の原因が電磁波であることには、^{じ、まじょうそつ}ほぼ間違いがありません。今行すべきことは、これらの電子機器の便利さを競うことではありません。それらを使用しても様々な病変が生じないことを確実にするために、あらゆる努力が払われるべきです。このことは、製造者と販売者両方の責任です。一方で、多くの利用者には、電子機器を使う上での思慮分別が足りず、使い過ぎによる健康被害が生じています。電磁波による健康被害の可能性の一例として、携帯電話の登場と同時期から、若年層を中心に脳腫瘍がかなり増えているという事実が知られています。

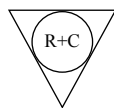
これらに加えて、心の内面の汚染があります。この汚染は、嫌悪や恨み、憎しみ、不寛容、怒り、嫉妬などを通して、人間自身が生み出す否定的な思いという形で人体に影響を与えています。第一に、このような思いは、^{いだ}そうした考えを抱いたり発していると自身では気づいていないとしても、



当の本人に悪い影響をおよぼします。しばらくすると、肉体的、精神的な問題が生じ、それが深刻な病気に至ることさえあります。第2の影響として、否定的な思いが集合的無意識にはびこり、それがマイナスに働く波動で満たされると、このことが原因となって、憎しみや悪意や恨みなどに満ちた状況の発生が助長されることとなります。これとは逆に、肯定的な考えは、それを抱いた本人だけでなく、人類全体の集合的無意識にも有益な影響をもたらします。こうした観点から、「精神の錬金術」と呼ばれる実践に、バラ十字会員は昔から力を注いできました。それは、傲慢さを謙虚さに変え、利己心を分け与える心に変え、狭い心を親切な心に変えるテクニックにあたります。

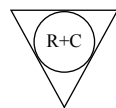
病あるところには薬があります。外科手術もさることながら、薬もまた、大きな進歩を遂げ、健康改善に重要な役割を果たしてきたことは認めなければなりません。しかし、薬剤の使用に欠点がないかと言えば、そうではありませんし、道を踏み外すことさえあります。人間の活動のほとんどの分野がそうであるように、薬の使用もお金という要素に影響される分野であり、大病院や大手製薬会社にとって「金のなる木」だと、病気のことを呼ぶ人がいるのも無理はありません。また、現在ではよく知られている事実ですが、心理的効果以外には影響をおよぼさない薬剤が多くあり、そのような薬には、あるはずだとされている効果が、実際にはありません。治療効果が立証されている薬剤の中には、ひどい副作用を伴うものがあります。このことはワクチンの多くにもあてはまり、中には、人間に生まれつき備わった免疫システムの破壊を引き起こすワクチンまであります。繰り返しますが、バラ十字会は、薬や手術を否定しているわけではないということをご理解ください。しかし、「すべての薬と手術の唯一の目的は治療である」と言うことは、偽善以外の何ものでもありません。

医療に限らずいかなる分野であっても、人間は、絶えず自然の摂理を尊重して、それに沿って行動しなくてはなりません。自然の摂理から外れてしまうとすぐに人間は、自然界との絆を絶きずなってしまい、自らの幸福とは反

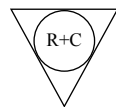


対の道を進んでしまいます。自然と手を取り合って進んでいくべきであるにもかかわらず、あまりにも長い間、人間は、無知と思いがりと強欲さによって、自然界を支配しようとしてきました。自己を過大評価するあまり分別を失い、自然界に表れている知性は、人間の知性とは比べ物にならないほど優れていること、また、自然の力は、人間たちが誤用しない限り、実質的にあらゆることがなし遂げられるほど優れたものであることを人間は忘れてしまったのです。ホモ・サピエンス・サピエンスとは、私たち現生人類に名付けられた学名ですが、文字通りに訳せば「知っているということを知っているヒト」という意味です。しかし、人間はあらゆることに対して自然界に恩義を負っており、自然の助けなしには何もできないという基本的な事実を知ることから、人類は、今なお遥か遠く隔たった地点にいるようです。

私たちの考えでは、地球の役割は、人間がその上で生きていくことができるということだけにあるわけではありません。地球は、人間が精神的に進歩し、一人ひとりが命ある魂としての資質を十分に発揮することを可能にしてくれる環境でもあります。ですから、地球は、物質的な役割と精神的な役割の両方を担っています。このことは、高い英知を備えた世界中の思想家や哲学者たちが、時代を超えて常に説いてきた教えです。人類がこの教えをはっきりと理解し、それに従って行動するようになるまでは、現代にはびこっている物質至上主義と個人主義は、じわじわと度合いを悪化させ、それに伴って、人間と自然の両方にとってマイナスとなる結果が次々ともたらされることになるでしょう。現代は、かつてないほど、人間－自然界－神という3つの要素の協調を復活させる必要に迫られています。このことは、あらゆる神秘思想の根幹であり、文明そのものの一部として組み入れられるべき規範です。現代文明がこのことを拒み続ける限り、現在の苦難は続き、本来手に入れられるはずである、調和の取れた状況にたどり着くことはできません。



誰もが知っている通り、地球は、野生動物や家畜などの、無数の動物の家でもあります。そして、動物にもまた、魂が宿っています。高度に進化した動物では、ひとつひとつの個体に個々の魂があり、そこまで進化していない動物では、集団としての魂があります。実際のところ、あらゆる生き物は、普遍的ソウル（Universal Soul：宇宙の魂）と、この魂に特有の意識（宇宙意識）によって命を与えられています。しかしながら、一つひとつの生き物が、大宇宙のこの魂とこの意識をどの程度完全に表現することができるのかということは、その生物が、生命全体からなる一連の系列のどこに位置しているかということと、その生物の体がどの程度進化しているかということに左右されます。生物によって知性や感情に差があるのは、このことが理由です。しかし、人間界、動物界、植物界、鉱物界の間には明確な境界も隔たりもありません。どの生き物も同じ生命力によって命を与えられていて、この地球上で見られるように、全体の中の一員として、宇宙の進化に参加しています。この進化の過程において、地球上では、人間が最も進んでいることは言うまでもありません。しかしこのことは、人間が、他の生き物に対して何でも要求できる権利を持っていることを意味しているわけではありません。そうではなくて人間は、他の生き物に対して果たさねばならない義務を負っています。

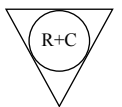


結論

In Conclusion

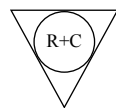
以上が、この文書によってあなたと分かち合いたいと、私たちが心から望んでいる考えです。スピリチュアリティ（spirituality：精神性）の重視と人間尊重と環境保護という方向に向かって、人間は、個人としても集団としても行動を起こすことが、今すぐ必要とされているとバラ十字会は確信しています。しかし、もしこの3つに順位をつけるとすれば、最も優先されるべきなのは環境保護でしょう。というのも、人類が直面している社会問題や経済問題を永久に解決する方法を、もし見つけ出すことができたとしても、それと同時に、この地球が、その上に存在している大多数の生き物にとって、もはや生きることのできない、あるいは、生きてゆくのがとても困難な場所になってしまったとしたら、私たちがこの地球で暮らすことに何の意味があるというのでしょうか。また、私たちが地球で生きていくことで、どんな喜びが得られるというのでしょうか。この事柄に関しては、国家と国民を統治する政治家に、極めて大きな責任があります。政治家には、決定を下し、その決定が確実に実行されるようにするための権力が与えられているからです。もし私たちが環境保護への関心を失い、自然を保護するために自分の範囲でできることを何もしないならば、状況が悪化しつづけることは明らかです。そして、未来の世代の人たちが受け継ぐ星は、かつての美しい姿のわずかな痕跡しかとどめていないことになるでしょう。

あなたは驚かれるかもしれませんが、優先順位の2番目は、スピリチュアリティの重視ではなく人間尊重の精神でしょう。社会生活の中心の位置に人間を置き、同時に自然に敬意を示した場合にだけ、幸福と健康と繁栄を、分けへだてなくすべての人にもたらすことができます。このことを実現するためには、人と人之间には差異や意見の隔たりがあることを承知の上で、それにもかかわらず、すべての人のことを、自分の別の可能性であると見なすことが前提になります。それは、決して簡単なことではありません。



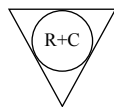
せん。私たちの一人ひとりにはエゴがあり、そのせいで自己中心的になりがちであり、また、関係の浅い他人の利益よりも、自分自身や家族の利益、そして、自分と様々な類似点がある人たちの利益を優先しがちだからです。こうした自己中心的で、利己的でさえある態度は、極端にまで進むと、差別、隔離、敵対、排斥などの拒絶反応を人間同士の間にも生み出す元凶になります。それとは対照的に、人間尊重の精神は、寛容や共有、度量の広さ、他の人への共感をもたらし、ひとことで言えば友愛精神と同じ意味を持ちます。人間尊重の精神は、「人間は誰もがこの地球の住民である」という考えが基になっています。

自然環境に負担をかけ過ぎない生活をしなければならないことは、地球の現状を考えれば、比較的すぐに分かることです。同様に、知性と感性を十分に備えた人であれば誰でも、たとえ自身がヒューマニストでないとしても、人間尊重の精神を身につけることが良いことである理由を理解できることでしょう。それに対し、スピリチュアリティを重視する根拠は、基本的には、論理だけに頼るのでは見いだすことはできません。特に、魂や神の存在は、バラ十字会の神の定義を採用したとしても、証明することはできません。ですから、スピリチュアリティを重視することが、幸福を手に入れたり十分に価値ある人生を送ったりするうえで欠かせないことであるように思えるにもかかわらず、ある人が、やはり神は存在しないと考えるとしても、それは十分に理解できることだと私たちは考えます。しかしそうは言っても、宇宙と地球と人類が、今ここに存在していることは、偶然の産物ではなく、神とは言わないまでも、人知を超えた、ある計画の一部であることは明らかであるように私たちには思えるのです。そして、まさにこの理由から、宇宙がどのように創造されたかを研究したり、生きることの深遠な意味について疑問に思ったりする能力が私たち人間には備わっています。そのようなことができる私たちは、宇宙や地球上で繰り広げられている宇宙の進化という舞台の上の役者でもあり、同時に観客でもあると言うことができます。



もしかしたら、あなたは、環境保護に関心を持ち、あらゆる人間を尊重すべきだと考えているけれども、スピリチュアリティの重視には興味がないという人のひとりかもしれません。もしそうであれば、あなたが、物質以外には何の価値もないと心の底から考えている人でない限り、神が存在するとは考えないとしても、少なくとも自然と人類のことを、尊く大切に考えているのでしょし、この考えは立派で賞賛に値することです。同じように、物質至上主義の人と信仰を持たない人も明らかに違います。一般的に言えば、物質至上主義の人は、物質的な何かを所有することを、人生の最大の目標と考えます。そして、しばしば、自然にダメージを与え、他の人については考慮をしないというところにまで行き着いてしまいます。無信仰の人は、多くの場合、宗教の様々な主張が、そもそも人には知ることのできない事柄であると考えている人（不可知論者）か、あるいは、かつて抱いていた信仰心を失った人です。いずれにせよ、宗教心ではなくスピリチュアリティを重視することそれ自体が、人間尊重や環境保護へと人を向かわせる力になるとバラ十字会は考えています。先ほどもお話ししましたが、その理由は、スピリチュアリティの根底にあるのは、人間を超越した崇高な法則についての知識だからです。この崇高な法則とは、自然法則であり、宇宙の法則であり、魂に働く法則です。この種の知識を探究する人は、誰もが、たとえまだその知識を手に入れていないとしても、理想主義的な性質の人です。

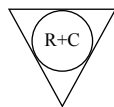
人類学者によると、今の私たちに最も近い「現世人類」が出現したのは約 20 万年前です。人ひとりの一生の長さに比べると、人類は老齢のように思えますが、進化の周期に照らして考えれば、現世人類はまだ思春期にあります。そして、その時期の特徴を余さず表しており、たとえば、自分とは何者か、自分にはどのような運命が待ち受けているのかといったことを模索しています。その反面、無責任なくらい呑気^{のんき}で、永久に生き続けられるかのように錯覚し、好きなだけ羽目^{はめ}を外し、ものの道理を否定し、社会常識など意に介しません。しかし、進化のこの段階では、この時期なりの困難や試練や挫折に直面しながらも、この時期にしか味わえない充実感



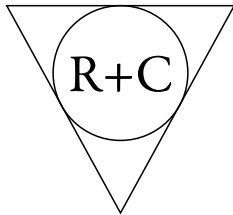
や達成感や希望にあふれています。そしてこの時期は、成長し、一人前になり、花を咲かせ、ついには人類自体の資質を十分に発揮するために欠かすことのできない通過点なのです。しかし、そのためには、大人にならなければなりません。

最後になりましたが、今までに述べてきたすべてのことから考え、人類が、スピリチュアリティ（spirituality：精神性）の重視と人間尊重と環境保護という方向に舵^{かじ}を切ってほしいと、私たちはかつてないほど強く願っています。そして、この方向へと向かうことで、人類は再生を果たし、あらゆる面で生まれ変わった「新しい人類」（new humanity）への道が開けることでしょう。17世紀のバラ十字会員たちは、『バラ十字友愛組織の声明』の中で、この再生をすでに提唱していました。しかし、宗教と政治と経済の分野の当時の保守的な人々から拒絶され、この訴えに同意したのは自由思想家だけでした。現在の世界の状況を考えたとき、この訴えを再び取り上げて、多くの人に伝えることが、有益でもあり必要でもあると私たちは考えたのです。そして、今回は、広い範囲からの賛同が得られることを願っています。

So mote it be!



2014年1月6日に調印



バラ十字暦 3367 年

日本語版第一刷発行：2014年1月

発行者：バラ十字会日本本部 AMORC

www.amorc.jp

